

危険！ 道路は穴ボコだらけ



ぽっかり空いた大穴の段差は手のひら分。危険だ!!

新芦屋下

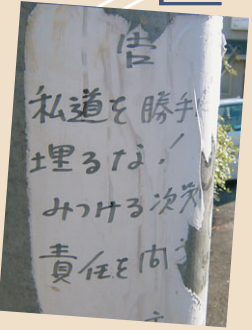
「告！私道を勝手に埋めるな！
見つけ次第責任を問う。地主」。

「告！私道を勝手に埋めるな！
私道は大穴だらけ、埋めるのも妨害
手書きの「お触れ書き」
が電柱に貼ってある。

その「私道」には大きな穴がぽっかりと口を開け、水が溜まっている。自動車、単車などは慎重に、穴にはまらないように通り過ぎていく。

私道の地主が、道路
工事許さず、砂利道も

「ここは吹田市新芦屋下。「道路」を所有する地主が、工事を許さないため、いまだに砂利



「危ないですよ。この家の奥さん、夜中にこの穴にはまって怪我されたようです」とは、地元の春田圭子さん。「危ないからって、穴を埋めようとしたら、『人の道に何するんや』と埋めることもできないんです」。

道であり、舗装されており、でもひび割れ、大穴、地面から

浮き上がるマンホールのふた、段差…。

もし、自宅まで上下水や、ガスなどを引くために、「私道」



山田西

山田西3丁目の山田体育館を越え、いかりスパーに至るまでの広い竹やぶに、現在

広い竹やぶに大マンション

建築中

出入口1カ所 交通事故が心配

大きなマンションが建築中である。バス通りを一步中に入ると、これはすごい。「出入口が1か所しかないマンション反対」「11年前の建築許可で建てるマンション。交通事故が心配です」など、大きな看板と林立するノボリ。一体何が起きているのだろうか？

11年前、近鉄不動産が、
開発を断念……

住民たちが作成した看板によると…



業者が開発を断念。竹やぶはそのまま残された。

計画の再燃を聞き、住民たちは合同で陳情に行き、せめて道路をもう一か所作り、安全を確保してほしいと要望したが、業者はこれを拒否。吹田市は「道路を取り付けるように」と行政指導したようだが、結局はそのままで。

榎原津一郎さんに戦争体験を聞く

戦場ではどちらも死ぬ

ブッシュも安倍首相も戦前と同じくり返し



▲当時の仕事(赤紙配布)について語る榎原さん

▲軍歴が記載された軍隊手帳と戦陣訓

Q 召集されたのはいつ頃ですか？

榎原 昭和14年です。それまでの昭和5〜6年は軍人で、その後8年間「豊津村」で役場職員でした。昭和16年豊津村が吹田市に合併して吹田市になりました。私は陸軍の「留守隊」で人事担当になり、中国、韓国などの戦況に合わせて、新人を軍事教練し、戦えるようにしてから戦地へ送り出す仕事をしていました。私は軍人でありながら「吹田市役所兵事課兵事係長」になるのです。

Q 兵事係は何をしますか？

榎原 召集令状、つまり赤紙を配る部署の責任者です。赤紙が届くと、いち早く吹田に住む在郷軍人の元へ届ける段取りして、吏員に配達させるという仕事です。

陸軍から「お茶の会です」と電話が入る。これは暗号で、「これから召集令状を持っていく」という意味です。知らない他課の人間からは、「兵事係はのんきやな〜。こんなご時世に」と言われました。

Q 電話が入ればどうしますか？

榎原 自転車に乗って阪急の相川駅へ。いつもの待ち合わせ場所に立っていると、陸軍の担当者が来て、封筒を手渡され、急いで役場へ帰ります。それから赤紙を届けに行く。ここで大事なものは、普段から在郷軍人がどこにいるかを把握

Q 戦死者のためのお葬式をするのも仕事だったとか？

榎原 公葬といましてね。遺骨がほとんど帰ってくるから、大体10人くらいたまれば、吹田第二小学校の講堂で、葬式を挙げました。私はその都度、市長の弔辞と在郷軍人連合会長の弔辞の原稿を書きました。原稿を書いて起案し、助役、市長と見てもうります。市長も自分が読む原稿なので、「ここはこうしようか、ちょっと表現を変えようか」などと市長室で相談しました。

Q 弔辞の内容は？

榎原 戦死者の功績を褒め称えて、最後に「戦場で骨をつすめ、血を流し、

お国のためになくなったのは痛恨の極み。もつて冥(めい)いせられよ」といった感じですね。

Q 戦後はどう過ごされました？

榎原 兵事課が援護課に変わりました。それまで戦争に行く若者を送り出していた仕事で、戦争で傷ついた人を助ける課に変わったのです。軍隊が、トランプク杯に積んだ軍服や靴、乾パンなどを運んできます。馬をもらってきた人もいました。これら援助物資が一杯になつて、置く所がなくなつてしまい、西尾邸(旧仙洞御料庄屋敷)の蔵に入れたり、市長室に詰め込んだり…。

Q 日本はイラク戦争に巻き込まれたり、北朝鮮問題もあって、「危ない時代」と思われませんか？

榎原 戦前の日本と今の北朝鮮は似ているね。それと靖国神社参拜問題。なんで総理大臣が行くのかねえ。中国や韓国の人たちは、今でも「日本はけんかが好きや」と思っているよ。当時は国民も「最後は神風が吹く」と大本営発表にだまされていた。沖縄では23万人も死んだんでしょ？ブッシュ大統領も安倍総理も、戦前と同じようなことを繰り返そうとしているのでは？先の戦争を「良かった」という人は「人もいけませんよ。いくさは一度としてはダメ。戦争に勝ち負けはないんですよ」。

「原風景残す」の現市長は
口約束だけなのか……

計画の再燃を聞き、住民たちは合同で陳情に行き、せめて道路をもう一か所作り、安全を確保してほしいと要望したが、業者はこれを拒否。吹田市は「道路を取り付けるように」と行政指導したようだが、結局はそのままで。

阪口市長は、住民とは面会せず、開発の許可を下ろした。「原風景を残したい」と、口にしてはいる現市長であるが、「言葉だけ」なのだろうか。

99%下水道は普及
新芦屋は汲み取り…

新芦屋の開発は、昭和30〜40年代。道路は吹田市の「公道」として、移管されるべきだったところが、「道路の所有権」だけは、問題の不動産業者が握り締めたまま。

99.8%。ほぼ吹田市全域に下水道が建設された。しかし例外がある。新芦屋の場合、「私道の地主」が道路掘削を認めず、下水の敷設を拒否。結果、多くの家庭が今だに汲み取りか浄化槽での汚水処理。

もし、自宅まで上下水や、ガスなどを引くために、「私道」

を掘削しようとするれば、この不動産業者に「私道掘削料」を支払わねばならない。「業者は『道路ころがし』するんです。所有権が移転されるたびに、持ち主が悪徳になる。道路を公道にと頼んでも、役所は『民と民の話に、不介入』と逃げ。仕方なく『下水を通して』の請願を集めた」。春田さんたちの願いは、昨年12月議会で全会派が採択。